

町田都市計画道路3・3・36 (町田市本町田～旭町三丁目)

令和3年7月2日(金)

建設局道路建設部

目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	7
3. 事業の投資効果	9
4. 事業の進捗状況	14
5. 事業の進捗の見込み	17
6. コスト縮減等	18
7. 対応方針(原案)	19

1. 事業概要

全体図

町田3・3・36号線

○町田市相原町

～町田市南町田四丁目

○延長 約18.1km

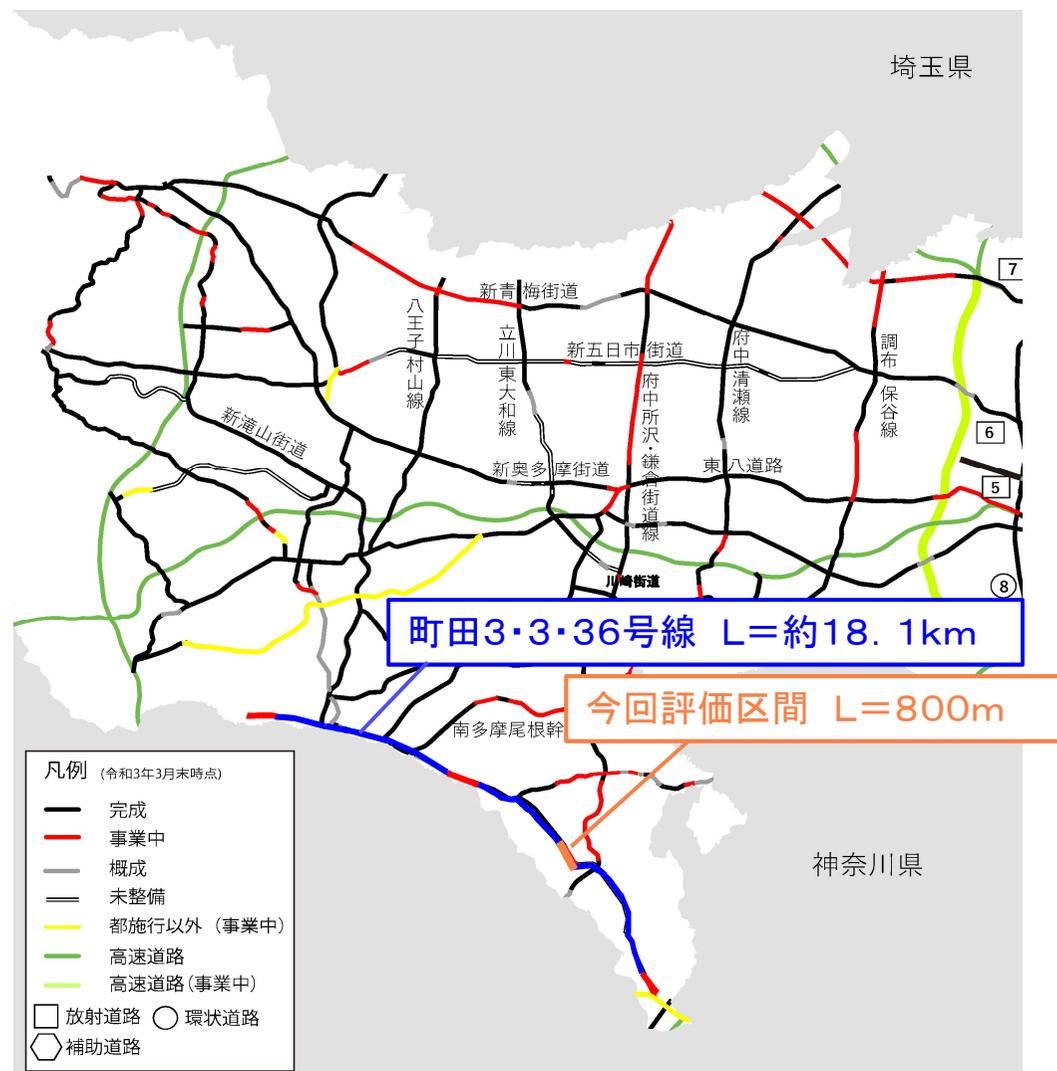
今回評価区間

○町田市本町田

～町田市旭町三丁目

○延長800m

○幅員25m



1. 事業概要



1. 事業概要

事業期間

平成19年度～令和5年度

事業の概要

本区間の整備により、町田市中心部へのアクセスが向上するとともに、**周辺道路の交通分散**が図られる。また、歩道を整備し、電線類の地中化することで、**快適で安全な歩行空間**が形成され、**都市景観の向上**が図られる。

1. 事業概要



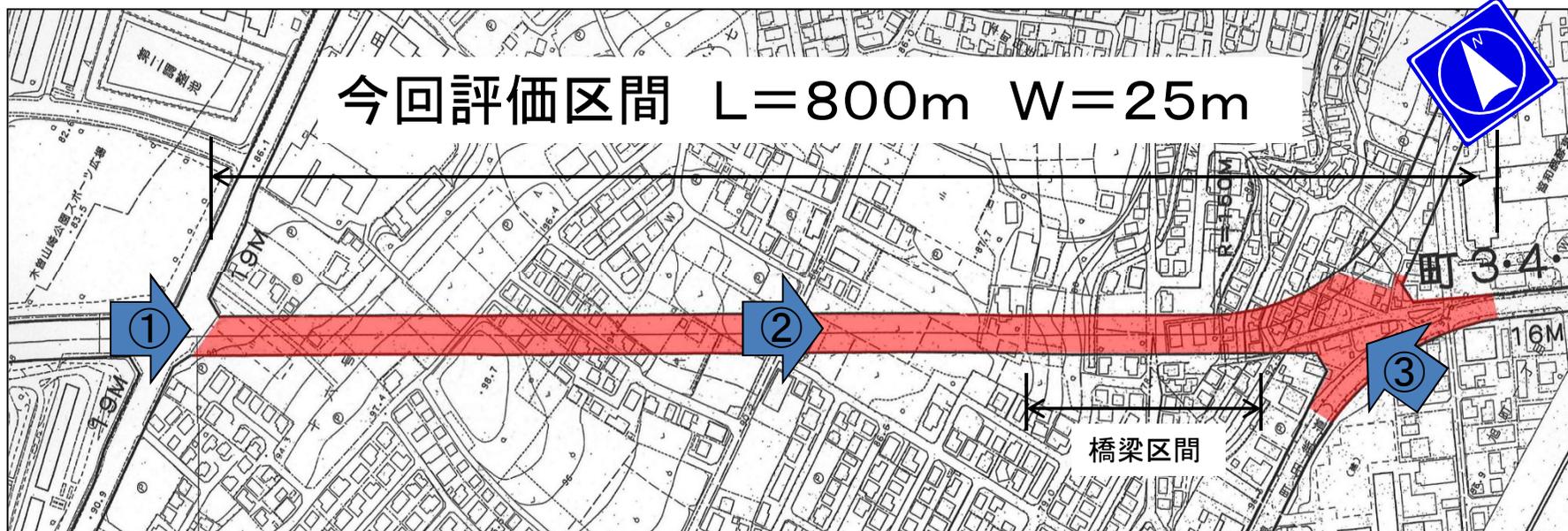
① 起点側(木曾団地側)



② 事業区間中間部付近



③ 起点側(町田街道側)



1. 事業概要

経緯

年度	計画等
昭和36年10月5日	都市計画決定
平成19年9月6日	事業認可取得
令和6年3月31日	事業認可期間

2. 社会経済情勢等の変化

社会経済情勢の変化

本路線周辺の平成27年度の現況交通量は、平成22年度と比較して、横ばいとなっている。

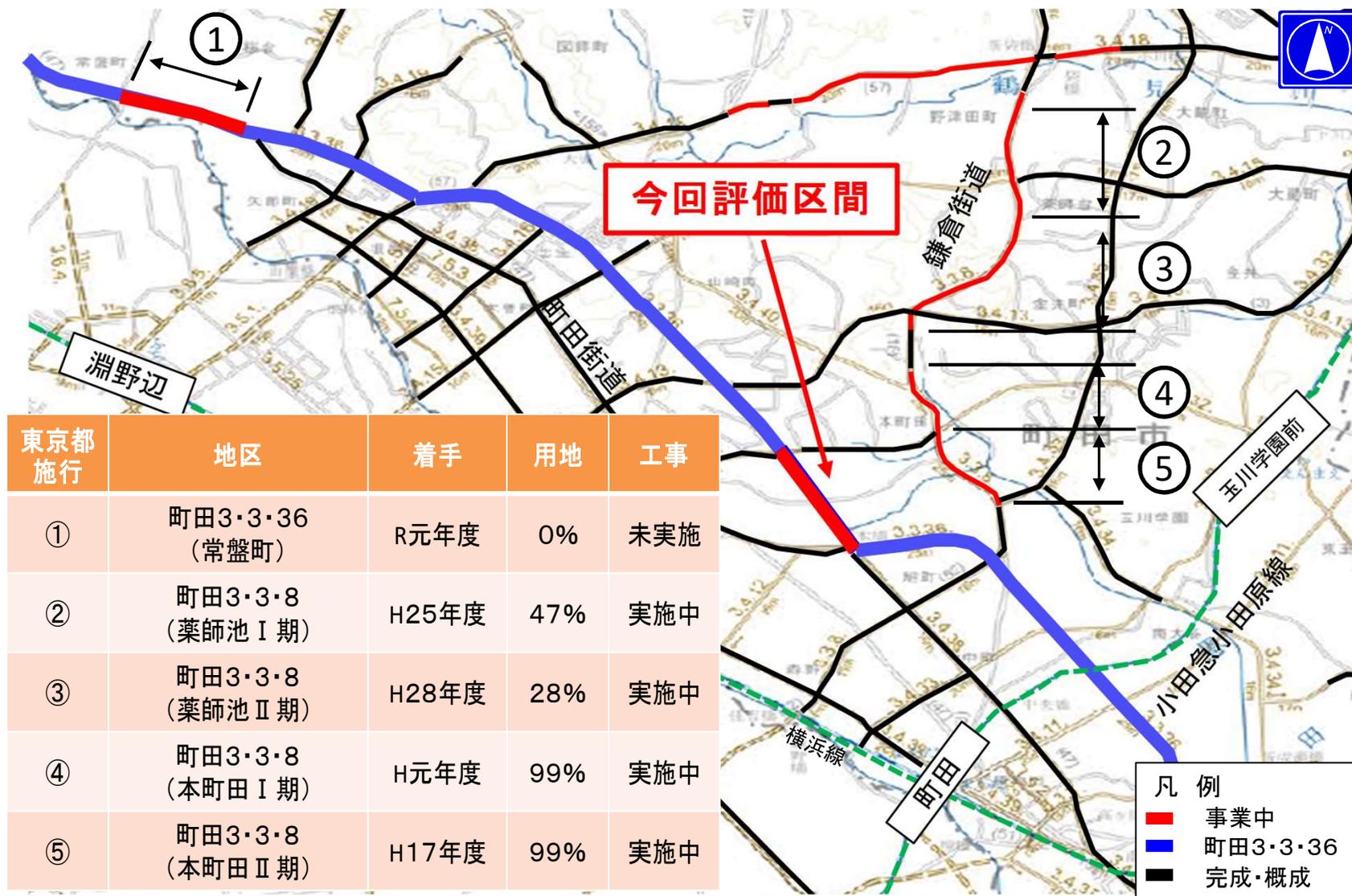
現況自動車交通量【町田街道】(道路交通センサスによる)

平成22年度: 13, 516台/12h、平成27年度: 12, 689台/12h



2. 社会経済情勢等の変化

関連する他事業等の進捗状況の変化



3. 事業の投資効果

定量的効果

【便益(B)の算定】

現在価値化総便益	207.7億円
走行時間短縮便益	191.7億円
走行経費減少便益	15.8億円
交通事故減少便益	0.2億円

【費用(C)の算定】

現在価値化総費用額	126.7億円
工事費	48.7億円
用地費	73.0億円
維持管理費	5.0億円

※費用便益分析マニュアル(国土交通省 平成30年2月)に基づき分析

【費用便益比(B/C)の算定】

$$\underline{B/C = 1.6}$$

3. 事業の投資効果

定性的効果

<交通>

- ・交通渋滞の解消
- ・物資流動円滑化への寄与
- ・バスの定時性
- ・迂回交通の減少

<くらし>

- ・公共施設へのアクセス向上

<景観>

- ・都市景観の向上

<防災>

- ・緊急車両の走行
- ・延焼遮断
- ・災害時の避難路の確保

<安全>

- ・交通事故の減少
- ・バリアフリー化
- ・自転車や歩行者のための空間確保

3. 事業の投資効果

定性的効果

＜交通＞ ・交通渋滞の解消 ・バスの定時性
町田街道を利用する交通の分散により**渋滞緩和**が図られる。



① 現況(木曾中原交差点)



② 現況(町田市民病院東交差点)



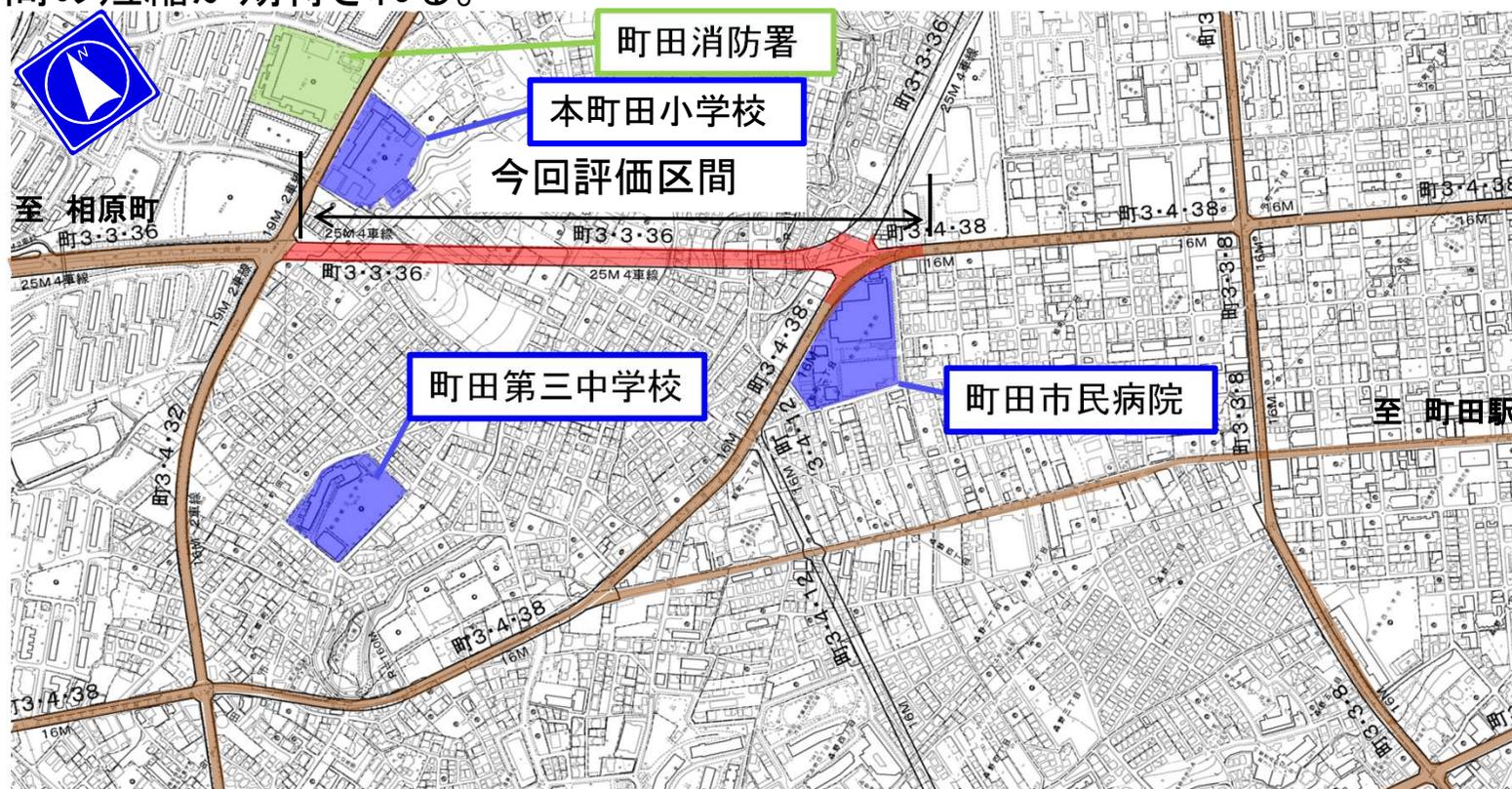
3. 事業の投資効果

定性的効果

- ＜防災＞
- ・災害時の避難路の確保
 - ・緊急車両の走行

町田市地域防災計画に基づき、本町田小学校、町田第三中学校は避難施設（避難所）に指定、町田市民病院は災害拠点連携病院に指定されているため、**災害時の避難路が確保**される。

緊急車両の走行が可能となるため、町田消防署から町田駅方面の中心市街地への到達時間の短縮が期待される。



3. 事業の投資効果

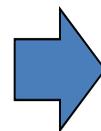
定性的効果

- <景観> ・都市景観の向上
- <安全> ・自転車や歩行者のための空間確保

電線共同溝の整備や歩道の整備を行うことにより、**都市景観の向上**や**歩行者のための空間創出**が見込まれる。



起点側(木曾団地側)



完成イメージ

町田3・3・36(木曾・山崎団地):幅員25m

4. 事業の進捗状況

事業費の執行状況

(R2年度末時点)

	用地費	工事費	合計
全体事業費	5,235百万円	4,395百万円	9,630百万円
執行済額	5,228百万円	2,821百万円	8,049百万円
執行率	99.9%	64.2%	83.6%

用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
19,410m ²	19,374m ²	99.8%

4. 事業の進捗状況

一定期間を要した背景等

- ・多くの地権者から事業への協力を円滑に得られたが、一部権利者については合意を得るにあたり時間を要している。

事業の進捗状況・残事業の内容

- ・未取得用地の早期更地化を目指し、折衝や収用手続きを進めている。
- ・現在、橋梁工事及び擁壁工事、電線共同溝設置工事を行っている。
- ・引き続き、橋梁工事を進めるとともに、街路築造工事、電線共同溝設置工事などを進めていく。

4. 事業の進捗状況



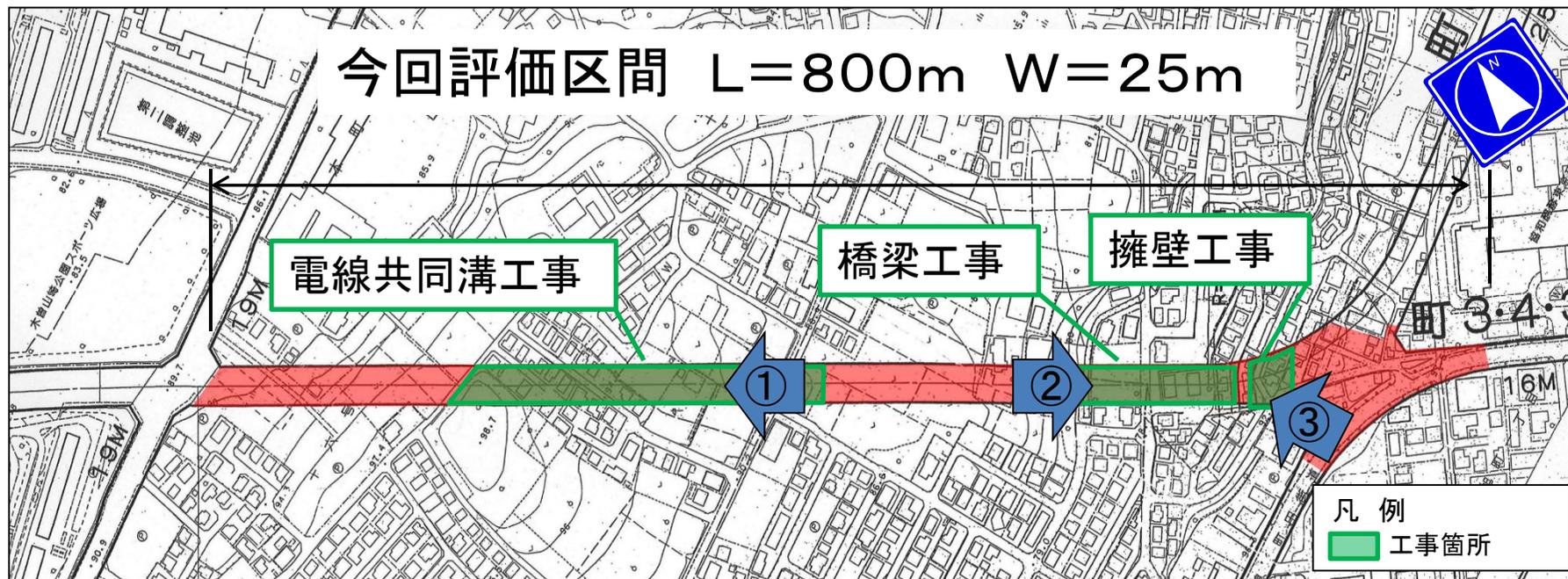
① 電線共同溝設置工事箇所



② 橋梁工事箇所



③ 擁壁工事箇所



5. 事業の進捗の見込み

今後の事業の進捗見込み

収用手続き中の画地においては必要な事務手続きを円滑に行う等、残り数件となる未取得箇所について、各画地毎に必要な事務・折衝を進めていき、工事工程に支障が生じないように努める。

今後、残る橋梁工事、街路築造工事、電線共同溝設置工事を進める。



現況(事業区間橋梁部付近)

6. コスト縮減等

新工法、事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ・橋梁及び擁壁については、コスト比較を行った上、経済的なものを採用しており、契約・施工中であるため、新工法、事業手法、施設規模等を見直す可能性はない。
- ・その他については、一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって新工法の採用等による新たなコスト縮減の可能性は極めて少ない。

コスト縮減の取組

- ・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。

7. 対応方針(原案)

- 本事業区間の整備により、町田市中心部へのアクセスが向上するとともに、周辺道路の交通分散が図られる。また、歩道を整備し、電線類を地中化することで、快適で安全な歩行空間が形成され、都市景観の向上が図られるなど十分な効果が期待できる。
- 中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。



継 続